

「SOGI」とは多様な性的指向や性自認。私たちは毎月の定例会で、院内でのSOGI支援推進のために色々な議論を行っています。

答えが出ないことも多いですが
私たちがどんな検討を
行っているのかを定期的に
ご報告いたします。

今回の議題

アライフォローアップ 研修実施

SOGI支援チームは、本学の「高知大学におけるSOGIの多様性に関する基本方針（令和4年1月27日制定）」に準拠し、当院内で以下の目的を達成するために活動しています。

研修、提言などの活動を通じて
附属病院職員のSOGIへの
理解を深めること

多様な性の在り方を持つ人々が
苦痛なく安心して受診、治療を
行うことができる院内環境
づくりに資すること

これまで課題として
上がっていた
アライ*フォローアップ
研修を実施いたしました。
今回はその内容について
ご報告いたします。

*アライとは、同盟、仲間、味方などを
意味する英単語。性的少数者にとって
の理解者、支援者を意味します。



前号で「院内SOGIマップ」が完成し、院内のどこに配慮があるのかを可視化することができました。ハード面の整備は着実に進んでいますが、次はいよいよソフト面として私たち職員一人ひとりの「対応力」を磨く段階に入りたいですね。

現在、当院の院内アライは200名を超え、名札にレインボーバッジを付けた職員が多職種に広がっています。しかし、院内アライからは「バッジを付けてから、実際に声をかけられたらどうしようと緊張している」という率直な不安の声も届いています。



レインボーバッジ



以前のアンケートでも「知識は身についたが、具体的な場面でどう動けばよいか自信が持てない」という意見が多くありました。特に、患者さんが最初に訪れる初診患者受付やインフォメーションといった「窓口での初期対応」が重要ですね。

以前から計画していた「実際の窓口対応を想定したロールプレイ」を具体化しましょう。患者さんが「相談カード」を提出された際、いかに周囲に配慮して別室へご案内できるか。受付を担当する事務スタッフと私たちSOGI支援チームがどう連携すべきかを確認する必要があります。



窓口で話にくい事情のある方
このカードを窓口へお持ちください

※プライバシーに配慮し、おうかがいします



相談カード



そうですね。まずは窓口での対応を、分かりやすい手順にまとめてみましょう。当事者の方にもご協力いただき、実際にロールプレイをすることで、マニュアルだけでは気づけない課題を一つずつ確認していきたいですね。

フォローアップ研修 レポート

今回の研修では、窓口担当事務、SOGI支援チーム（看護師、心理師、助産師、ソーシャルワーカー、事務）および患者役の当事者が参加し、実際の来院場面を想定したロールプレイを行いました。

1 相談内容をスムーズに確認するための選択肢(①～⑧)

相談カードが提出された際に、支払いに関する相談を含む8つの選択肢を掲示しています。この仕組みの目的は患者さんが相談内容を窓口にて口頭で番号を伝える、または番号を指さすだけで要件を伝えられるようにすることです。これにより、周囲に内容を知られるリスクを減らし、プライバシーを保護しながらスムーズな対応が可能になります。

2 ロールプレイ参加者による振り返り

患者役(当事者)と事務スタッフが実際にやり取りを行う中で、以下のメリットが確認されました。

患者役(当事者)

指さしても口頭でもどちらでも内容を伝えられ選択できるので良いと思う。

窓口担当事務

番号で相談内容を判断でき専門チームへの連携がとてもスムーズでわかりやすかった。



●相談内容の選択肢

ご相談の内容について、選択肢からお選びください

- ① 支払いに関する相談
- ② 経済的な相談(生活費が払えない など)
- ③ 入院・退院に関する相談
- ④ 退院後の生活、介護の相談
- ⑤ 福祉制度・障害者手帳などの相談
- ⑥ 学校や仕事復帰への相談
- ⑦ SOGI(LGBTQ)に関する相談
- ⑧ その他(困りごと など)

高知大学医学部附属病院

3 現場で大切にしたい対応の指針

研修内のディスカッションを経て、以下の具体的な対応ルールが確立されました。

●優先順位の判断
複数の相談

例

- ①支払いに関する相談と
⑦SOGI(LGBTQ)に関する相談が
重なった場合
- まずは
⑦SOGI(LGBTQ)に関する相談を
対応し、患者さんの心理的な安全を
確保します。

●情報の引き継ぎ

対応者が変わる際は、どの範囲まで情報を共有してよいか必ず本人と相談し、本人の同意を得た範囲で次の担当者へ引き継ぎします。

●周囲への説明

非当事者から「SOGIとは何か」と問われた際は「性の多様性に関する取り組みです」と簡潔に説明し、認知度の高い「LGBTQ」という表記も残すことで、窓口の円滑な運用を優先します。

4 今後の検討課題:より安心な受診環境を目指して

今回の研修成果をふまえ、今後は以下のような場面での対応についても、段階的に検討を進めていく予定です。

●入院を控えた方へのサポートの検討

病室や生活環境への不安を抱える方が、入院前から相談しやすい体制づくり(入退院支援センターでの対応など)を検討していきます。

●身体的プライバシーへの配慮の検討

放射線部や検査部、産婦人科・泌尿器科など、脱衣を伴う検査・診療部門において、どのような配慮や情報提供が必要か、現場の意見を聞きながら考えていきます。

●アライの質の向上に向けた継続的なフォロー

現在200名を超える院内アライが在籍していますが、今後は「知っている」だけでなく「適切に寄り添える」よう、個別のニーズに応じた支援のあり方を引き続き検討していきます。

編集後記

今回の研修を通して、相談カードの「番号を指さす」という工夫が、患者さんの安心とスタッフの動きやすさの両方に繋がっていることを再確認できました。

バッジやフラッグは、あくまで「ここにアライがいます」という目印に過ぎません。大切なのは、その先にいる私たちが、患者さんの不安をいかに受け止め、本人の意思を尊重した対応ができるかだと感じています。誰もが「ここに来てよかった」と安心できる病院になれるよう、これからも多職種で取り組んでいきたいと思いを。

チームでは、色々な部署からのご相談をお待ちしています。
みんなが過ごしやすい病院になるように一緒に考えていきましょう。

高知大学医学部附属病院 SOGI支援チーム

問い合わせ先 E-mail: sogi-kms@kochi-u.ac.jp